

広島市での「炊き出し」〈広島県〉

現実と向き合い、違いを超えて共に働く

国際平和都市として多くの人が国内外から訪れる広島市。あまり目立ちませんが、市内には50名余の人々が野宿をしています。広島流川教会では、カトリック職町教会（世界平和記念聖堂）と広島学院と協力し、月1回、

すぐ近くの公園で「炊き出し」を行っています。コロナ禍前は、カレーを作り、テーブルとイスを並べて、温かいカレーと手作りのデザートなどを食べていただいていた。時に、わたしたちも

テーブルに共につき、カレーを食べながらいろいろなお話をうかがうこともあります。

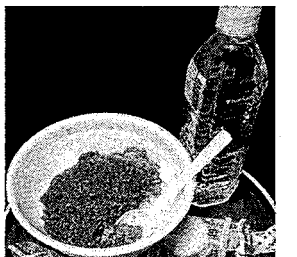
しかし、昨年度より感染予防のため、集つての食事が出来ず、食べ物（流川教会担当時はドライカレー）、飲み物、タオル等を個包装して一人一人に手渡ししています。それと献品いただいた衣服や靴、衛生用品等を毎回並べて持ち帰っていただいています。

また、2016年度からです。参加にあたり、前年度に教会全体で広島での野宿の実態等の学習会、そして臨時総会での参加決議をもってはじめました。教会全体の理解と折り、具体的支えの中で続けられています。

わたしたちは、この働きを「教会で担うのではなく、常に広島西分区内諸教会、関係施設・学校に呼びかけています。分区内の様々な方々から、献金や献品、当日の奉仕等の協力をいただいでい

ます。各個教会で担うのが困難でも、協力して取り組める、日本基督教団としてのつながりの中での働きです。

また、広島市では「炊き出し」以外にも「8・6」に関わる平和運動、「2・11集会」などもカトリック、他教派との協力の中で行われています。社会における現実と誠実に向き合うときに、各個教会、教派の違いを超えて出会い、共に働く



公園で、個包装した支援物資を配布

力を主イエスは備えてくださっていることを実感しています。

コロナ禍で様々な教会の集会等が休止されました。しかし、「炊き出し」だけは、最も困難の中に



ある人々に主イエスは寄り添っておられるとの信仰に立ち、その主に仕える働きとして休まず続けられています。

（向井希夫報／広島流川教会牧師）